# 平成３０年度

# ファカルティ・ディベロップメント
# 推 進 委 員 会 活 動 報 告 書

平成３１年３月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

# 平成３０年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

## 【 目　次 】

Ⅰ　平成３０年度ＦＤ活動の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１．平成30年度の活動概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

２．平成30年度中期計画・年度計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

３．平成30年度の主なＦＤ活動一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅱ　１年間の活動実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

１．平成30年度「学生による授業評価」実施結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

２．「ベストクラス」の選定、公表及び授業公開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

３．アクティブ・ラーニング研究会の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

４．平成30年度他大学等のＦＤ研究会等参加状況一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

５．平成30年度教職大学院授業改善・ＦＤ委員会活動実績　・・・・・・・・・・・・・・・・35

Ⅲ　資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

１．本学におけるＦＤの定義について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

２．兵庫教育大学におけるＦＤ推進活動への取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

３．　国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程　・・ 39

４．　授業公開の実施に関する申合せ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

５．　本学におけるＦＤ推進委員会と教育研究組織との関連図　・・・・・・・・・・・・・・42

６．　ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(平成30年度)　・・・・・・・43

# Ⅰ　平成３０年度ＦＤ活動の概要

## Ⅰ．平成３０年度ＦＤ活動の概要

### １．平成３０年度の活動概要

本年度は、新しい授業評価の形式を受けて、その実施及び結果の検討がなされた。さらに、授業におけるアクティブ・ラーニングの推進に向けた取組が継続された。具体的には、FD 推進委員会が５回、学生・教職員 FD 交流会が３回、開催された。各回の FD 推進委員会の最初の議題に注目すると、表１のようになる。本年度は、１）アクティブ・ラーニング拡充への取り組み、２）ベストクラスの選定、３）新しい授業評価実施とそのふりかえりが、本委員会の主たる活動であったことがわかる。

表１　FD 推進委員会における主な議題

| 各回 | 主な議題名 |
|---|---|
| 1回 | 平成30年度におけるFD活動の取り組みについて |
| 2回 | 平成29年度授業科目におけるベストクラスの選定について |
| 3回 | アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査について |
| 4回 | 平成30年度FD推進委員会活動報告書の作成について |
| 5回 | 学生による授業評価の検証結果について |

（1）アクティブ・ラーニング拡充への取り組み

例年通り、教員に対して、FD 推進委員会が実施する研究会や授業公開に少なくとも１回は出席するよう依頼し、日常的な FD 活動の意識化及びアクティブ・ラーニング拡充への理解を求め、研究会・公開授業にのべ 69 人の参加を得た。加えて、学生の FD 活動への参画も奨励し、FD 交流会やアクティブ・ラーニング研究会への学生の参加を得た。

アクティブ・ラーニング拡充への取組については、ベストクラスに選定された授業について、授業公開を実施した。前期では、加東キャンパスで授業公開の後第 10 回アクティブ・ラーニング研究会を実施（6/21「日本語の仕組みと言語教育」菅井三実教授）して、参加者で授業のありかたを検討した。その他、２回の授業公開（6/20「子どものメンタルヘルス」藤原忠雄教授、6/12「哲学概論」森秀樹教授）を行った。後期にも、４回の公開授業を実施（11/28「教職員のストレスマネジメント」藤原忠雄教授、12/13「子ども理解と学級経営の心理学」秋光恵子教授、「学校心理学とカウンセリング」藤原忠雄教授、12/17「初等算数科教育法」加藤久恵准教授）して、教員間の相互研修の場を設けた。また、神戸ハーバーランドキャンパスにおける公開授業（6/20 藤原忠雄教授、11/28 藤原忠雄教授）では、遠隔システムを用いて加東キャンパスにおいても公開授業を参観・参加できるようにして教員への参加を促し、実際に加東キャンパスにおいても参加者を得ることができた。

アクティブ・ラーニング研究会は２回開催され、2 回目は関西大学の森朋子教授をお迎えして、第 11 回アクティブ・ラーニング研究会「アクティブラーニング型反転授業 – わかったつもりをわかったへ」を実施した。反転授業を用いた具体的な取組を、その今日的な教育的異議に関する知見も交えて紹介いただいた。なお、本研究会には教員以外にも多くの学生の参加が得られた。他にも、アクティブ・ラーニング推進のために授業充実への取組として、教員に対して関西地区 FD 連絡協議会「シリーズ大学の授業を極める」（動画教材）の紹介、各 FD 活動に関する公開研修会の紹介などの取組を進めた。

（2）ベストクラスの選定

ベストクラスの選定については、平成 29 年度の授業を対象に、学生・教職員 FD 交流会での協議、FD 推進委員会での審議を経て、10 のベストクラスを選定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が 3.5 以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに 10 程度に絞り込むことになる。その後、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的に選定されたベストクラスが、10 頁の表である。平成 29 年度ベストクラスとして選定された前期開講科目及び平成 30 年度ベストクラスとして選定された後期開講科目については授業の公開を依頼した。

（3）新しい授業評価実施とそのふりかえり

今年度より学部・修士課程と専門職学位課程が統一の授業評価票を用いて学生による授業評価を行うようになった。授業評価票の項目は、本学での授業改善の指針となりえ、教職員と受講者である学生とが共有すべきものとなった。新しい授業評価票による授業評価は順調に実施されたが、2/14 実施の学生・教職員 FD 活動交流会においてそのありようについて、学生、教職員間で検討する機会を得た。その結果、新しい授業評価についての評価と今後の課題が議論された。また、その際の提案を受けて学生への自由記述による今年度授業評価への調査を実施した。

（4）今後の課題

次年度以降の FD 活動の取組みの課題として、学生の FD 活動へのより積極的なコミットをあげておきたい。学生と教員の双方が FD 活動やアクティブな授業について議論することが、より充実した授業への提示につながるということを、学生、教員がともにより自覚することが重要であると考える。また、教員はより積極的に他大学の FD 活動に参加し、他大学の活動から学ぶ必要がある。本学では、今後、よりアクティブ・ラーニングの展開を進めることが求められており、それらの充実は学生がアクティブ・ラーニングについての考え方や指導法を身につけるような授業にもつながることを意識的に展開していかなければならない。引き続き学内で実施する授業公開やアクティブ・ラーニング研究会に、教員が少なくとも年に 1 回は参加することが望まれるところである。

## ２．平成３０年度　中期計画・年度計画

平成30年度のファカルティ・ディベロップメント推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 中期計画12 | 教育活動に対する評価結果を教育の質の向上や改善に結びつけるため、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を中心とした組織的取組により、ベストクラスの選定、教員養成スタンダードのカリキュラムマップの改善等、全学的なファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。 |
| 年度計画12 | 平成29年度に開発した授業評価方法により全学で統一した授業評価を実施し，ベストクラス選定等の全学的なFD活動を引き続き推進する。 |

（実施組織：ＦＤ推進委員会）

| | |
|---|---|
| 中期計画02 | 学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、学修時間の確保、シラバスの充実及び学修成果の可視化に取り組む。 |
| 年度計画02 | アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。また，学修時間の確保，シラバスの充実及び学修成果を可視化する方策を整備する。 |
| 中期計画05 | 学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、教員養成スタンダード（大学院）に示された資質・能力の観点から授業内容・方法を見直し、シラバス改善、学修成果の可視化に取り組む。 |
| 年度計画05 | アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。また，シラバス改善，学修成果を可視化する方策を整備する。 |

（実施組織：学部教務委員会(02)、大学院教務委員会（05）FD推進委員会(02,05)　）

| | |
|---|---|
| 中期計画03 | 厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果の分析を行い、授業改善の具体的指針を明確化する。また、卒業認定については、新人教員としての資質や能力を着実に育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って、卒業判定基準に基づき厳密に行う。 |
| 年度計画03 | 厳格な成績評価を行うための評価方法を見直す。また，平成31年度に開設する新教育課程のディプロマ・ポリシーに従った卒業認定について，課題を整理する。 |
| 中期計画06 | 厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果と教員養成スタンダード（大学院）の観点から、授業改善の具体的指針を明確化する。<br>また、修了認定については、教育に関連する質の高い人材を育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って見直し、厳格化した修了判定基準に基づき厳密に行う。 |
| 年度計画06 | 平成29年度に評価項目を見直した学生による授業評価を実施し，評価方法等の検証を学生参画のもとで行う。また，ディプロマ・ポリシーに従った修了認定について，課題を整理する。 |

（実施組織：学部教務委員会(03)、大学院教務委員会（06）FD推進委員会(03,06)　）

## ３．平成３０年度の主なＦＤ活動一覧

| 日　　付 | 事　　項 |
|---|---|
| 平成30年 5月 1日 | ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第１回） |
| 平成30年 5月19日 | 関西地区ＦＤ連絡協議会第１１回総会出席 |
| 平成30年 6月 6日 | 第１回学生・教職員ＦＤ活動交流会（ベストクラス選定作業） |
| 平成30年 6月12日<br>～6月21日 | ベストクラス選定科目の授業公開（前期） |
| 平成30年 6月21日 | 第１０回アクティブ・ラーニング研究会<br>「ベストクラスのうちの一科目を授業公開及び授業研究会」 |
| 平成30年 7月 2日<br>～前期科目終了日 | 前期「学生による授業評価」実施 |
| 平成30年 9月12日 | 第２回学生・教職員ＦＤ活動交流会（ベストクラス候補科目を選定） |
| 平成30年 9月26日 | ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第２回） |
| 平成30年10月 | 平成２９年度授業科目における「ベストクラス」を公表（大学Webサイト） |
| 平成30年11月28日<br>～12月17日 | ベストクラス選定科目の授業公開（後期） |
| 平成30年12月13日 | ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第３回） |
| 平成31年 1月 8日<br>～後期科目終了日 | 後期「学生による授業評価」実施 |
| 平成31年 1月17日 | 第１１回アクティブ・ラーニング研究会<br>「アクティブラーニング型反転授業―「わかったつもり」を「わかった」へ―」 |
| 平成31年 2月 8日<br>～平成31年 2月21日 | アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査 |
| 平成31年 2月14日 | 第３回学生・教職員ＦＤ活動交流会（授業評価項目の検証） |
| 平成31年 2月21日<br>～平成31年 2月26日 | ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第４回） |
| 平成31年 3月 7日<br>～平成31年 3月14日 | 学生による授業評価に関するwebアンケート実施 |
| 平成31年 3月25日 | ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第５回） |

# Ⅱ　１年間の活動実績

## 【平成３０年度　前期「学生による授業評価」実施結果】

１．実施時期

７月２日～前期科目終了まで

（７月２日以前に授業が終了する場合は，終了前に調査票を配付し，随時実施）

２．実施方法

⑴授業評価調査票によるアンケート調査とする。

⑵調査票の配付及び回収方法は，次のとおり。

・授業終了までに，授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
・調査票の回収は，受講生の代表者が行い，回収用封筒に入れて，その場で封をして教員に渡す。
・教員が学務課教務企画チームへ封筒を提出する。

⑶次の点を学生に周知し，実施する。

・この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し，授業の改善を行うために実施するものであること。
・成績に影響することは全くないので，授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
・複数の教員が分担をしている授業は，授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は，自由記述欄に記入すること。
・項目⑬「授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。」及び
項目⑭「「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

３．調査結果の活用

集計結果については，教員にフィードバックし，授業の内容・方法等の改善に活かすとともに，必要に応じて教員のコメント等を付記し，個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

４．実施結果（最終集計結果）

| | |
|---|---|
| 対象科目数（A） | 479 |
| 実施科目数 | 453 |
| 未実施科目数（B） | 26 |
| 未実施科目割合（（B）÷（A）） | 5.42 % |

※未実施理由

・実施を失念していた。または，返却なし。（22科目）
・アンケート調査を配付する前に終了していた。（4科目）

【平成３０年度　後期「学生による授業評価」実施結果】

１．実施時期

１月７日～後期科目終了まで

（１月７日以前に授業が終了する場合は，終了前に調査票を配付し，随時実施）

２．実施方法

⑴授業評価調査票によるアンケート調査とする。

⑵調査票の配付及び回収方法は，次のとおり。

・授業終了までに，授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
・調査票の回収は，受講生の代表者が行い，回収用封筒に入れて，その場で封をして教員に渡す。
・教員が学務課教務企画チームへ封筒を提出する。

⑶次の点を学生に周知し，実施する。

・この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し，授業の改善を行うために実施するものであること。
・成績に影響することは全くないので，授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
・複数の教員が分担をしている授業は，授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は，自由記述欄に記入すること。
・項目⑬「授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。」及び
項目⑭「「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

３．調査結果の活用

集計結果については，教員にフィードバックし，授業の内容・方法等の改善に活かすとともに，必要に応じて教員のコメント等を付記し，個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

４．実施結果（最終集計結果）

| | |
|---|---|
| 対象科目数（A） | 459 |
| 実施科目数 | 430 |
| 未実施科目数（B） | 29 |
| 未実施科目割合（（B）÷（A）） | 6.32 % |

※未実施理由

・実施を失念していた。または，返却なし。（21科目）
・アンケート調査を配付する前に終了していた。（8科目）

## ２．　「ベストクラス」の選定、公表及び授業公開

平成 27 年度から選考を開始した「ベストクラス」について、本年度は、平成 29 年度開講科目の「ベストクラス」として 10 の授業科目を選定した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員が FD について公式に協議する「学生・教職員 FD 活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員 FD 活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それを FD 推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

本年度は、よい授業を教員間で共有することを目的として、ベストクラス選定科目について、前期は 29 年度選定科目から 3 科目、後期は 30 年度選定科目から 4 科目の授業公開を行った。

また、前期の 1 科目については、第 10 回アクティブ・ラーニング研究会として、授業公開の後、授業研究会を行い参加者で意見交換を行った。

# ベストクラス選定結果一覧（平成２９年度開講科目）

平成30年9月26日ＦＤ推進委員会

| 課程 | 科目名称 | 履修年次 | 科目区分 | 受講者数 | 教室 | 開講時期 | H30年度<br>開設状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学部 | 学習指導と学校図書館 | １～４ | 教職キャリア科目群／教職支援 | 41 | 共通講義棟<br>３０４ | 前期<br>木５ | 前期<br>木５ |
| | 自然地理学概説 | 3 | 専修専門科目群／<br>専門教育（社会系） | 29 | 言語棟<br>７１８ | 前期<br>火３ | 前期<br>火３ |
| | 初等算数科教育法（Ｂクラス） | 2 | 教育実践・リフレクション科目群／初等教科指導法 | 94 | 共通講義棟<br>２１１ | 後期<br>月３ | 後期<br>月３ |
| | 学校心理学とカウンセリング | 4 | 専修専門科目群／専門教育（学校心理系） | 5 | 共通講義棟<br>２０５ | 後期<br>水２ | 後期<br>水２<br>（一部集中） |
| 大学院（修士） | 障害児医学特論 | 1 | 専門科目／<br>特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群 | 36 | 子午線ホール | 前期<br>火１ | 本年度<br>開講無 |
| | 小学校授業実践英語演習Ｉ<br>（小学校英語活動プログラム） | 1 | プログラム対象科目／小学校英語活動プログラム | 9 | 言語棟<br>１２２ | 前期<br>水３ | 前期<br>水３ |
| | 子ども理解と学級経営の心理学<br>（昼間クラス） | 1 | 専門科目／<br>広領域科目群 | 54 | 共通講義棟<br>２０４ | 後期<br>木２ | 後期<br>木２ |
| | 教職員のストレスマネジメント<br>（昼間クラス） | 1 | 専門科目／<br>専門領域科目群 | 18 | 共通講義棟<br>２０７ | 後期<br>火２ | 後期<br>水７ |
| 大学院（専門職） | 社会心理学に基づく学級経営の実践開発 | 2 | 専門科目／<br>生徒指導実践開発コース | 10 | 言語棟<br>５２６ | 前期<br>火２<br>金７ | 前期<br>火２<br>金６<br>（一部集中） |
| | 道徳教育諸理論と道徳の授業づくり | 1 | 専門科目／<br>小学校教員養成特別コース | 22 | 共通講義棟<br>２０４ | 前期<br>集中 | 前期<br>集中 |

平成 27 年 3 月 13 日
ＦＤ推進委員会決定

# ベストクラスの選定について

## １．ベストクラス選定の目的

ベストクラスは，本学の教育の質の向上のために，よい授業を教職員と学生が共有することを目的に選定されるものである。

## ２．選定手続き

①選定は，前年度授業評価結果を参考にし，学生・教職員ＦＤ活動交流会での検討に基づいて，ＦＤ推進委員会において行われる。

②授業評価の高評価授業科目を対象とし，原則として評価項目の平均値が 3.5 以上のものとする。ただし，選考基準平均値は，評価結果を考慮して設定できるものとする。

③高評価自由記述を検討して，よい授業を 10 程度に絞り込む。その際，授業規模，授業形態，履修年次，科目区分を考慮に入れる。

・学校教育学部　　81 人以上，80～31 人，30 人以下
　修士課程　　31 人以上，30 人以下
　専門職学位課程　　共通基礎科目，専門科目
・講義，演習，実験など

④候補とされた授業の担当教員と受講者（授業担当教員の推薦による）に学生・教職員ＦＤ活動交流会がインタビューを行い，検討資料とする。

・授業者に対しては，授業の意図，当該授業での授業意図の共有度，学生の参画度，当該授業の良さと課題など
・受講者に対しては，うけとった授業の意図，参画度，知的刺激，知識の創造など

## ３．選定された授業科目の公表方法等

①ベストクラスとして冊子，本学Ｗｅｂサイトで紹介する。
内容は
・授業名（履修年次，科目区分），開講時期（時限），教室環境，受講者数など
・選定理由
・授業者の意図と授業の振り返り，授業での工夫点，今後に向けた改善点
・受講者の参画度インタビュー，この授業のオススメポイント

②アクティブ・ラーニング研究会での公開授業の候補とする。

以上

## 平成30年度前期 授業公開一覧（平成29年度ベストクラス選定科目）

| | 課程 | 科目名称 | 授業形態 | 担当教員 | 履修年次 | 科目区分 | 平成30年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 受講者数（人） | 教　室 | 開講状況 | 授業公開日時 |
| 1 | 学部 | 哲学概説 | 講義 | 森　　秀樹 | 2 | 専修専門科目群／<br>専門教育科目（社会系コース） | 30 | 共通講義棟<br>２１３ | 前期<br>火４ | ６月12日（火）<br>４限 |
| 2 | 大学院（修士） | 日本語の仕組みと言語教育<br>（昼間クラス） | 講義 | 菅井　三実 | 1 | 専門科目／<br>教科教育実践開発専攻／言語系教育コース | 27 | 共通講義棟<br>２０４ | 前期<br>木２ | ６月21日（木）<br>２限 |
| 3 | | 子どものメンタルヘルス<br>（夜間クラス） | 講義・演習 | 藤原　忠雄 | 1 | 専門科目<br>人間発達教育専攻／専門領域科目群（学校心理・学校健康教育・発達支援コース） | 16 | 神戸ＨＬＣ<br>講義室４<br>（遠隔講義システムにより，共通講義棟３１２でも公開） | 前期<br>水６ | ６月20日（水）<br>６限 |

備考：「日本語の仕組みと言語教育」について，授業公開の後，授業担当教員，履修学生，参加者で交流を行う。

# 平成30年度後期 授業公開一覧（平成30年度ベストクラス選定科目）

| | 課程 | 科目名称 | 授業形態 | 担当教員<br>下線は非常勤講師 | 履修年次 | 科目区分 | 平成30年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 履修者数（人） | 教　室 | 開講状況 | 授業公開日時 |
| 1 | 学部 | 初等算数科教育法（Ｂクラス） | 講義 | 加藤　久恵 | 2 | 教育実践・リフレクション科目群／初等教科指導法 | 93 | 共通講義棟２１１ | 後期<br>月３ | 12月17日（月）<br>３限 |
| 2 | | 学校心理学とカウンセリング | 講義・演習 | 藤原　忠雄 | 4 | 専修専門科目群／専門教育（学校心理系） | 4 | 共通講義棟２０５ | 後期<br>水２<br>（一部集中） | 12月14日（金）<br>４限 |
| 3 | 大学院（修士） | 子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス） | 講義 | 秋光　恵子 | 1 | 専門科目／広領域科目群 | 39 | 共通講義棟２０４ | 後期<br>木２ | 12月13日（木）<br>２限 |
| 4 | | 教職員のストレスマネジメント（昼間クラス） | 講義・演習 | 藤原　忠雄 | 1 | 専門科目／専門領域科目群 | 18 | 神戸ＨＬＣ講義室２ | 後期<br>水７ | 11月28日（水）<br>７限 |

# 授業公開アンケート集計結果
# （哲学概説）

**１．実施状況**

日　　時：平成３０年６月１２日（火）１４：５０～１６：２０

場　　所：共通講義棟２１３

参加者数：１３名（教員１１名　事務職員　２名）（受講学生除く）

**２．公開授業について**

| | 教　員 |
|---|---|
| ①大変参考になった | ５人 |
| ②参考になった | ３人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①模擬授業，受講生からの質問のあと，森先生からの肝どころを押さえた解説がよかったです。

②・ミニ授業→Ｑ．Ａ→森先生の補足，解説・哲学そのものへの興味・中高生への授業を想定して，具体例などが構成されている。

③学生に考えさせていた。

④・模擬授業をとり入れて学生に主体性をもたせている点。（しかし事前チェックなど教員の負担もあると推察します。・授業の目的「（１）学ぶ（２）考える（３）表現する」を授業内に上手く構成されていること。

⑤学生の常識を疑わせるような視点は考える授業になっていたと思う。

⑥・カントとヘーゲルを学ぶということとカントとヘーゲルを題材に思考する（カントとヘーゲルで思考する）ということのバランスが上手くとれている授業だと思いました。
・森先生の学生とのかかわり（言葉のかけ方，問い方，意見の受け方など）がたいへん参考になりました。

⑦哲学は思考の過程を経ることによって理解されるものだと思います。この授業では，学生なりに思考し，準備してきたことをもとに授業が進行されるよう構成されていました。次に森先生が授業の評価という入り口から，授業テーマをさらに掘り下げていたのが，興味深かったです。（授業している学生への介入も含めて。）最後に授業の内容を深めて

いましたが，その内容が授業のモデルを示すものであり，同時に授業のテーマであったという面白さがありました。

⑧学生の学びを深める問いかけ，やりとりが絶妙でした。また，学生の発表と先生の補足による授業構成の対比がとてもわかりやすかったです。例え話もとてもわかり易く，丁寧に深めてゆける授業でした。ありがとうございました。

⑨楽しい授業でした。ふりかえりでのポイントの言語化はさすがです！学生が進行することで“我々のこと”として考え深めていく事ができている様子を見せて頂きました。原田先生のハプニングを上手く活用するところが自分には出来ないところですが，先生が介入する際の問いの立て方を学びました。ありがとうございました。

**３．授業公開に関してその他意見等を自由にご記入ください。**

①場所は変えない方がよいのでは。森先生は固定の机をあまり好まなかったと思うのだが。

②大教室での学部の授業を希望します。

③学生は参加し，考え，ある意味で揺さぶられるような体験ができる授業として，この授業に高い評価をつけたのだと思いました。ほとんどの学生が授業に“参加”していました。このような関係が授業の中で作られるのは，私もめざしているところです。（なかなか難しいのですが・・・。）

# 授業公開アンケート集計結果
# （子どものメンタルヘルス（夜間クラス））

**１．実施状況**

日　　時：平成３０年６月２０日（水）１８：３０～２０：００

場　　所：神戸 HLC 講義室４（遠隔講義システムにより共通講義棟３１２でも公開）

参加者数：９名（教員６名　事務職員　３名）（受講学生除く）

**２．公開授業について**

| | 教　員 |
|---|---|
| ①大変参考になった | ５人 |
| ②参考になった | ０人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①日常でトレーニング（ホームワーク）を積み重ねること，その効果を測定することが授業に組み込まれていることは，授業の内容を実感を伴って体感できると思われます。
体験は気持ちよいものでした。全体的にてきぱきとしていないところがよいです。

②受講生のみなさんとの一体感が率直に「良いなあ」と思いました。藤原先生の声そのものが授業の流れ，学生に受け取ってもらいことにそのまま繋がっているように感じました。

③・独特の「間」があり，これがメンタルヘルスやストレスマネジメントを考えるのによい教材になっているように思った。この「間」のとり方を授業者である藤原先生が意識してされているのか，ストレスマネジメント研究をし，その技法に習熟するなかで，自然に身についていったものか，興味をもちました。
・リフレクションとその共有に充分時間をとられていることもこの特徴であり，大事なことだと思いました。

④・導入部の授業の感想の読み上げはよかったと思いました。
・自動・生徒のメンタル面にかかわる重要なことについて平易に話されていると思いました。
・「技法の発展３」（？）のレジュメが欲しいと思いました。

⑤・当話間の全体における位置付け，前回における受講生の感想，質問へのフィードバック，前回の内容の振り返り等にしっかりと時間をかけられているところは，大変参考となった。
・ストレスマネジメント，ストレスマネジメント教育の理論的背景についての回であったが，内容の解説にしっかりと時間をかけられているところも大変参考になった。

**３．授業公開に関してその他意見等を自由にご記入ください。**

①藤原先生の人柄がよくでていると思いました。伝わるものが内容と一致しているので，学生の信頼を得られると思います。どうもありがとうございました。

②他の先生方の授業を拝見するのはとても参考になることはわかっていても，このような呼びかけがないと，難しいことなので，呼びかけていただくのはありがたいです。

③「空間感覚訓練」の際の指示が，やはり独特のペースでなされており，引き込まれるようでした。

# 授業公開アンケート集計結果
# （教職員のストレスマネジメント）

**１．実施状況**

日　　時：平成３０年１１月２８日（水）２０：１０～２１：４０

場　　所：神戸ＨＬＣ講義室５（遠隔講義システムにより共通講義棟３１２でも公開）

参加者数：６名（教員３名　事務職員　３名）（受講学生除く）

**２．公開授業について**

| | 教　員 | 事　務 |
|---|---|---|
| ①大変参考になった | ２人 | ０人 |
| ②参考になった | １人 | １人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①前期にも思いましたが，内容が具体的で応用できるものです。
授業に学生が“参加”しています。学生の意見は日常でも授業の内容を実践していることが示されています。１週間のふり返りが求められていることで，この 90 分に留まらない内容になっています。（また，次の１週間の課題（自立訓練の）が示されます。）

②学生の感想や質問に対して時間を多く取られているところは，ぜひ参考にしたい。
また，学生自身が体験したことを感覚的だけでなく，数値で視覚化することでの理解が深まりも自分の授業に取り入れてみたいと思いました。

③・前回の内容の振り返りと週の取り組みの共有など，既習の事項の想起をさせていること。
・活動の時間を十分にとっていること。
・受講生の学習内容に対する理解や実感を深めるような授業展開をされている。

④個人的な考え，思いの部分が多く，興味がひかれる授業であった。相手の考えもよく分かる授業だったので，今後の対人関係に役立つものと思われたため。

**３．授業公開に関してその他意見等**

①前期に引き続き，藤原先生にはお世話になりました。学生の受講姿勢がとてもよいですね。“参加している”という感じがします。頭だけで理解する授業ではないからだろうと思います。Active Learning は，単に話し合う授業を指すのではなく，心身のレベルで受けることができる場をいうのだろうと思われました。感覚に開かれている授業でした。だから，後半の話し合いも活発になるのだろうと思いました。

②学生に向けてのことを考えると，７限の時間は検討が必要ではないでしょうか。（教員もですが…）

③大学の教職員だけでなく，附属学校や公立学校の教員にも公開してはどうかと思います。

# 授業公開アンケート集計結果
# （子ども理解と学級経営の心理学）

**１．実施状況**

日　　時：平成３０年１２月１３日（木）１０：４０～１２：１０

場　　所：共通講義棟２０４

参加者数：１１名（教員８名　事務職員　３名）（受講学生除く）

**２．公開授業について**

| | 教　員 |
|---|---|
| ①大変参考になった | ４人 |
| ②参考になった | ４人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①授業の冒頭で受講生の感想を紹介し、個々の経験から一般化される視点を挙げ、丁寧にコメントを加えている。
限られた時間で紹介する感想も、様々な視点から考えることができるよう多くの中から配慮して選んでいることが伺える。

②理論的内容、研究成果と実践現場の事象、問題の具体とを結び付ける働きかけが多かった。そのことによって説得力が増していると感じた。

③本学の院生（現職教員）が求めているのはこのような授業なのだなぁととても納得した。今後の参考にしたいと思った。

④「子ども理解」を「学生理解」、「学級経営」を「ゼミ経営」と置き換えて考えることができ、自分の指導、在り方を振り返る契機となった。
本講義を受講している学生も同じように自分の経験した場面に置き換えて振り返ることができ、内容への理解が深まると思われ、今後の参考になった。

⑤学生の感想にきちんと答えていること。エビデンスに基づいたデータで学生に説明している。実践的で将来学級経営に役立つ内容と思った。

⑥豊富な事例と情報量をもとにしつつ、とてもわかりやすい解説で、勉強になりました。ありがとうございました。

⑦・経験的に知っていることをデータを用いて説明されており、説得力があった。
・説明の中に具体的な例（先生の伝え方など）が示されているので、イメージがしやすい展開になっていた。
・一枚のスライドの中の情報が多かった。（少し字が多い印象もあった。）逆に言うと正確な内容の説明なのだと思われる。

・先生が気づいていくことは大切なことなのですね。

⑧様々なデータを提示しており、その解釈もていねいにされていました。学生の理解も深まるのではないかと思いました。

**３．授業公開に関してその他意見等**

①専門外の授業であったが、良い機会であった。

②学校現場では自分の実践の高まりにおける“同僚性の構築”は非常に大きな影響を与えると言われている。

大学教員が自己の講義を一層改善していこうとした場合、自分をメタ認知し、これからの示唆を得るための“同僚性の構築”は必要ではないかと思われ、ＦＤ活動の取組みのひとつにならないかと感じる。

③いろいろと考えながら見せて頂きました。ありがとうございました。

# 授業公開アンケート集計結果
# （学校心理学とカウンセリング）

**１．実施状況**

日　　時：平成３０年１２月１４日（金）１４：５０～１６：２０

場　　所：教育・言語・社会棟１１２室

参加者数：６名（教員４名　事務職員　２名）（受講学生除く）

**２．公開授業について**

| | 教　員 | 事　務 |
|---|---|---|
| ①大変参考になった | ４人 | ２人 |
| ②参考になった | ０人 | ０人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①講義演習のバランス，内容そのものが勉強になりました。

②藤原先生は，授業の中で質問を学生にしますが，決して答えを言われない。考えを導く形式をとられている所がとても勉強になりました。
確認もしっかりとらえられていて，違う言い方を何通りも使って言われていました。納得です。まさにカウンセリングでした。学生たちもどんなことでも受けとめてくれるので話しやすいと思います。

③学生が積極的に議論に参加していた。「相手に期待せずに自分が変わる」印象に残りました。

④内容もさることながら，藤原先生の授業にただよう知的・学術的雰囲気，その陶冶性に心ひかれました。

**３．授業公開に関してその他意見等**

①日常生活に役立つことばかりで，とても勉強になりました。もっと授業を見てみたい，参加してみたいと思いました。

# 授業公開アンケート集計結果
# （初等算数科教育法（Ｂクラス））

**１．実施状況**

日　　時：平成３０年１２月１７日（月）１３：１０～１４：４０

場　　所：共通講義棟２１１

参加者数：１０名（教員８名　事務職員　２名）（受講学生除く）

**２．公開授業について**

| | 教　員 |
|---|---|
| ①大変参考になった | ４人 |
| ②参考になった | ２人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 |
| 記入無し | ２人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①自分とは異なる人の授業を参観することによって，自分の授業を相対化することができ良かった。（自分ならこうする，ここは気をつけたい，という点が見つけられた。）

②・ノートの使い方

・プリント，簡易テストの方法

・大人数でありながら発表を行わせているところ

・座席を指定して，よく学生をみているところ

・学生がノートをとる時間，考える時間をたっぷりとっているところ

・前時の復習を時間内に行っているところ

③1)「ノートに書く」という活動

2）座席の工夫

3）語り，話し方のスピードとテンポ

4）算数の場合，学生は学習内容を理解しているが，家庭科の場合，高１でおわり内容をすっかり忘れている。ノートに書く活動は参考になるが，家庭科では内容解説に時間がとられむずかしいところであると思った。

④・100 名程度の学生に対して一斉で教科教育法の授業を行う難しさを実感すると共に，様々な工夫が含まれていたと思います。

・教具を各自１つずつ準備する等の工夫もありました。

・学生の言動を受容しながら授業しているところなども，自分の姿勢を見直すよい機会となりました。

⑤自由度が高い中に，学生が考えを外化する機会を設けている点。

⑥勉強になりました。とくに，学習のペースがゆっくりで，学生にとって学ぶに丁度よいテンポについて考えさせられました。自分の授業だと，この 50 倍はつめこんでいるので…見直す良い機会になりそうです。

⑦・加藤先生の学生とのなごやかなやりとり。

・事前学習（宿題）をもとに議論している点

・ノート作り，教具（ジオボード）を使った活動と議論

⑧学習者と指導者の双方の視点というのがよくわかった。学生が主体的に授業に参加しているので，方法を参考にしたい。

**３．授業公開に関してその他意見等**

①[ＦＤ活動]として授業公開をするにあたって，学生の視点(アンケート)で「良いもの」(ベストクラス)を公開するということで良いのだろうか。それぞれが授業を見直すきっかけをつくるという意味では輪番でもよいのではないか。

[ベストクラス]の選定について，たしかに今回の授業の満足度は高そうな授業であった。他方，クラスサイズに適した指導法であったか，情報量が適切であったかなどの疑問もある。(工学教育の情報量としては少なく感じた)

この意味で，何をもってベストクラス(良いもの)として捉えるかについては今一度考える必要があると思う。

②大人数の授業公開をもっとしてほしい。

③・多人数の授業を見せてもらえてよかったです。

・上記 4) に関連しますが，知識，理解の定着をめざす授業を公開してもらえるとありがたいです。

・今回の授業では後ろの人が見えないので，実物投影機が必要と思います。つけて下さい。

④加藤先生の授業についてではありませんが，教室環境について，

1. 黒板の高さ：教室によっては教壇がないところもあります。全体に黒板の位置が高いため，改善が必要だと思います。
2. モニター：小さいと思います。天井設置型のプロジェクターにするなどの工夫が必要かと思います。
3. 実物投影機：ipad を使う等の工夫もできますが，教室に一台あると便利です。

公開授業について，授業の検討会もあればよいと思います。

⑤・実物等うしろから見えにくいので，実物投影機＆大型モニタを使うともっと良く見えると思う。

・課題がわかっていない学生も(うしろの方に)いた。課題も提示しておくと良い？かも。（でもあまやかしになる？）

授業公開ありがとうございました。

## ３．アクティブ・ラーニング研究会の実施

**■第１０回アクティブ・ラーニング研究会**

＝ベストクラス選定科目の授業公開及び授業研究会＝
日時：平成３０年６月２１日（木）10:40-13:00
場所：共通講義棟２０４
内容：
①公開授業（授業者：菅井三実教授）
9:00-10:30「日本語の仕組みと言語教育（昼間クラス）」
＊大学院修士課程開講、履修者２７名
②授業研究会（司会進行：菅井三実教授）
10:40-12:10　全体討論（授業の感想等）

参加者：１７名（受講学生除く）

**■第１１回アクティブ・ラーニング研究会**

日時：平成３１年１月１７日（木）14:50～16:20
場所：総合研究棟３階大会議室
内容：
講演
「アクティブラーニング型反転授業
―「わかったつもり」を「わかった」へ―」
講師：関西大学教育推進部　教授　森　朋子氏
参加者：５５名

# 第 10 回アクティブ・ラーニング研究会
# アンケート集計結果

## １．実施状況

日　　時：平成３０年６月２１日（木）１０：４０～１３：００

場　　所：共通講義棟２０４

参加者数：１７名（教員１４名　事務職員　３名）（受講学生除く）

## ２．公開授業について

| | 教　員 |
|---|---|
| ①大変参考になった | ７人 |
| ②参考になった | ４人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

①画像提示も含め具体例を豊富に示すことで，主張したいこと（理論的内容）の理解を促している。

②具体例がわかりやすく，かつ適切なタイミングで示されており，理論がわかりやすい展開になっていた。スライド１枚あたりの文字量，ポイント数もみやすかった。

③・時間配分・適切な例示

④多くの例を出していただき，説明も明快で，とても分かりやすかったです。授業での説明の仕方に大変参考になりました。ありがとうございました。

⑤大変豊富な例でわかりやすく説明されていて興味深く受講することが出来ました。ありがとうございました。学生からも活発に意見が出ていたことも印象的でした。

⑥・明日生徒に伝えたくなるような興味深い知識がたくさん得られた。
・身近な例が多く，わかりやすく面白い。
・テンポがよく，あっという間に時間が過ぎた。
・先生の博識さにかっこよさを感じる。

⑦時間を区切ることで，フレームワークを明確にしている。資料を精密に作っておられる。具体的なアドバイスがちりばめられている。

⑧具体的な例をあげて，写真ももり込んで学生の興味を持たせて講義に引き込まれていく内容であり，大変参考になった。質問の時間が十分確保されて，活発な意見が出ていてよかった。色々なコースの人が工夫して使える内容の授業になっていて，学生にも多くのことが身についた。

⑨・Q.A が多い。・「質問をどうぞ」・身近な例・スピード感

⑩知の獲得と思考の促進のバランスが秀逸だと思いました。

**３．授業公開に関してその他意見等**

①ベストクラスに選定された授業の様子をビデオ等に記録し，いつでも学内からみられるようにすればいいと思いました。

②２０４室の左列１列目の照明により，プロジェクターが見えにくい。

③ベストクラスに選定された理由や，どのような面が評価されているかについて示す資料を用意していただけるとありがたいです。

④もう少し多くの教員が参加すべきに感じた。受講生の話が多く聞くことができて，大変参考になった。

# 第 11 回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会
# アンケート集計結果

## １．実施状況

日　　時 ： 平成３１年1月１７日（木）１４：５０～１６：２０

場　　所 ： 総合研究棟３階　大会議室

参加者数 ： ５５名（学生３３名　教員１５名　事務職員７名）

## ２．アンケート回答者数

学生３１名　　教員１５名　　事務職員２名　　合計４８名

## ３．講演について

| | 学　生 | 教　員 | 事務職員 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| ①大変参考になった | １５人 | １１人 | ２人 | ２８人 |
| ②参考になった | １６人 | ４人 | ０人 | ２０人 |
| ③あまり参考にならなかった | ０人 | ０人 | ０人 | ０人 |
| ④参考にならなかった | ０人 | ０人 | ０人 | ０人 |

**上記回答理由，その他意見等　（原文ママ）**

**①大変参考になった**（２４件　学生１３件・教員９件・事務職員２件）

**【学生】**

（１）現在、学びのカタチを変えるための授業デザイン/ユニバーサルデザインについて研究しています。
「活動あって学びなし」と批判的にもとらえられるアクティブ・ラーニングの本来 or 今後の意味合い、可能性を再確認できました。
授業の内容の仕掛け、アクティブ・ラーニングの評価システム etc. 今後も研究していきたいと思います。大変参考になりました。

（２）普段、臨床コースで学んでいるため、とても新鮮だった。小学校においては、どちらかというと復習の要素の強い「宿題」から予習要素の多い「自学」へと家庭学習のパラダイムシフトが必要だと感じた。初の参加だったが、とても学び多く、今後も参加したいと思った。

（３）事前学習（予習）からのアクティブラーニングの効果について大変整理ができた講演だった。
中学の現場にいるが、漢字の書きとり、計算する力など高校入試でも必要となり、これらの学習については「反復」（くもん式）が必要な領域ではないかと、どうしても割り切れない部分がある。

（４）4 月から中学校の現場にもどり、自分自身が研究してきたことや、本学で学んだ

ことを実践したいと考えていたが、そのためにアクティブ・ラーニングや反転授業を行うための考え方、根本的な理念を非常に分かりやすくお話いただけたことがよかった。それもただ理論の説明だけでなく、実践事例を混ぜての話だったので、納得するものが多かった。

（５）個人の学びは大切だと考えていたが、やはりそれは重要で、個人から出発し、グループを経て個人へ戻るというプロセスがあることを学べてよかった。

（６）・わかる―ゆらぎ―わかる―ゆらぎ―わかった、のプロセスを知らなかったので納得できました。

・何の授業であっても、事前学習（何でもよいが動画見て）をして、学習活動をおこなうと効果的であるというデータ

（７）学校で行われているものをより高度に学ぶことができたと思います。

（８）研究で使ってみようと思いました。

（９）反転学習の具体的イメージが見えたような気がする。
それを実践に生かす場で、もう一度「ゆらぐ」と思うので、改めて学びたい。

(10) 授業力は「教える力」と考えてしまいますが、「学び手の学び力」を up させることだと感じました。「もやもやが学びを深める」と分かりました。

(11) 反転学習が深い学びに有効であることが、分かりやすい説明のため大変よく理解できました。反転学習を行うためには、環境整備が必要なことが課題だと思いました。

(12) 授業に入る前に、先に「わかったつもり」になる予習をしてから、アクティブラーニングをするというのは、あまり考えなかった。
今回の講演をうけて、そういえば、授業で発言させることばかりアクティブラーニングと考えていたなと思い返しました。
とても参考になりました。

(13) 現在受けている講義で深く理解できるものと、そうでないものとの差は何か考えていましたが、今回の反転授業を聞いて、その理由が少し見えた気がしました。
自分でそう感じるのだからぜひ現場に戻った時に扱いたいと思いました。
ありがとうございました。

**【教員】**

（１）これまでの授業スタイルが、手さぐりだったものがこれでよかったのだ！と確認できるよい機会となりました。

（２）「反転授業」について理解していなかったので、「内化」が進んだ。

（３）授業外での学生の学習をデザインする上で、反転授業の方法は参考になりました。学習者に学ぶための多様な選択肢を準備することは、学習の成果を効率よく生み出すためというよりも、一人一人の学習する権利を保障するという意味で大切だと思いました。

（４）とても的確に、テーマにそってお話をしていただけたと思います。

（５）“苦しい”予習、充分な予習ではなく、“ゆらぎ”を生む、という視点はとても

興味深いモデルでした。さまざまな学生への対応を考えられた内容であったこと、まさに現代的な方法を用いたものだと、大変参考になりました。ありがとうございました。

（６）予習の意味、内化・外化に関わる機能について、興味深く理解できた。

（７）考えを「深める」きっかけを持つことができました。

（８）・お話はわかりやすかったのですが、私の事前学習が不足していたため、深まらない部分もありました。

・すべて反転授業にすべきなのか（→最後にご回答いただきました）

（９）反転授業を学びという根本的な営みの中にきちんと位置づけてお話いただいたこと、とても勉強になる研究会でした。

**【事務職員】**

（１）森先生の豊富な知識のもとにデータを使って、わかりやすく説明していただいた。

（２）反転授業について、なぜいいのかが良くわかりました。

また、学生への仕掛けは「動画が有効」ということに納得しました。

**②参考になった（１９件　学生１５件・教員４件）**

**【学生】**

（１）本日のお話に基づく実践例をさらに知りたいと思いました。

（２）“反転授業”という言葉を初めて知りました。

確かにある程度の知識を持った上で活動する方が学びが深まりやすいし、アクティブ・ラーニングがよく反映されると思いました。

（３）アクティブラーニングをどうすれば効果的に行うことができるのかということが分かった。

しかし、大学生ではほとんどの学生がスマートフォンを持っていたり、学校に自由に使うことのできるパソコンがあったりなどインターネットを使える状況にあるが、小学校、中学校、高校では必ずしもスマートフォンを持っていないなどインターネットを使える状況にはないと思うので、その場合はどういう風にすればよいのかと少し疑問に思った。

（４）エビデンスをもとに、反転授業の良さ・メリットがよく分かりました。

しかし、携帯などがない家庭もあるかもしれません。そういった生徒への対応はどうしているのか気になりました。

（５）生徒に話し合いを通じて学びを深めさせたいと思っても、時間オーバーになって実現できないと思っていました。予習を授業外に置くことで、解決すると分かりました。参考になりました。

前半がすごく分かりやすくとてもよかったです。

（６）10 年度、20 年度をみすえると、知識自体は暗記する必要は考えにくく、活用する力が絶対的となると納得しました。

しかし、「input の手法は問わない」とのことですが、input するためのツール自

体が既に「誰かの output の産物」であることから、output の幅を広げ、種を減少させないためにも、多様な input を経験する必要性を考えます。

（７）私は学生ですが、来年からは小学校教員となります。アクティブラーニングという言葉は知っていたけれど、具体的な授業方法は知らなかったです。
授業者という観点から考えると、新しい視点を得ることができました。

（８）アクティブ・ラーニングがこれから重要になってくる、という話は授業や現場で何度も聞いてきました。今回の講演で子どもたちの頭が動かされるアクティブ・ラーニングな授業をつくるためにとても効果的な方法を知ることができました。春から教壇に立ちますが、参考にして授業づくりをしていこうと思います。ありがとうございました。

（９）将来小学校の教員を目指す身として、学校教育にいかすことはできるのか、という視点で講演を聞かせていただきました。
主に、大学での講義がメインであったが、参考になる部分も多くあった。

(10) 内化①―外化―内化②の内化②での学びを豊かにするためにグループ（外化）の活動を取り入れるということで、個人での学習を全体で共有することだけに重きをおかれていた印象を受けていたのですが、それを自分の言葉でおきかえ、学びにしていくということで、自分の深い学びのためのツールとしてのグループ共有するいう考え方にふれることができてよかったです。
そうなるために、最初の事前学習、グループでの学習をどう組み立てていくのか大事になってくるなと感じました。
また、反転授業という授業方法について知ることができて参加させていただきよかったです。

(11) アクティブ・ラーニングを有効に進めるためには、最初の内化の部分を事前学習に位置付ける反転学習が有効であることがわかった。

(12) ＡＬについても、反転学習についても、今まではどちらかというと形ばかり…と思っていました。しかし、今日のご講演で理論的に説明いただき、納得することが多かったです。
最初の内化で、動画を用いることについては、高校現場で実施するには少し知恵をしぼる必要があります。
4 月から現場にもどりますので、情報担当の先生もまきこんで考えてみたいと思います。

(13) 私は、あまりアクティブラーニングに対して良いイメージがありませんでした。特に今回テーマである「わかったつもり」になっていて、結局は何も定着しないのではないのか？文科省が出してきているものにとびつくだけで、何もないのではないか？と感じていました。しかし、今日のお話で、これをきっかけに学び直したいです。

(14) 学習者の立場から、反転授業がのぞましいことが分かりました。

(15) アクティブラーニングで内化→外化→内化が大切ということでしたが、予習の

質によってアクティブラーニングの質も上がるということでしたが、これは小、中学校の生徒にも関係すると思っています。ただ、小中学校での予習は、ペーパーのものになってしまうと思います。中々、各家庭の経済状況も考えると、どうしても学校からの提供したものになるのかなと思います。今日のお話は大学中心のことということで、なる程と思いました。又、高大の連携が大切だと言われましたが、小学校や中学校からの連携も大切だと思いました。学ぶ姿勢は小学校ぐらいで、なえているように感じます。でも学ぼうと思って学ぶと力になるというのはその通りだと思います。

**【教員】**

（1）反転授業を取り入れる背景、根拠がわかり、自分の講義を考え直す契機となった。

（2）動画をとり入れた授業等、体験をさせることが効果的なことは以前からわかっていたが、反転授業によって効果的なことがわかった。
「わかったつもり」になっていることが多いが、アクティブ・ラーニングによって「わかる」授業になる工夫の大切さがよくわかった。
「覚える」ことより「わかる」ことに重きを置いて教えていきたい。
実際に「アクティブ・ラーニング」のやり方を一部入れた講演にしてほしかった。

（3）・デザイン実験
・「見えにくい」学力について考えていく必要

（4）まだ消化できていないところが多く、何故まで行かず「それは何？」で立ち止まっているところがありますが、自分の授業にも取り入れようと思いました。
ただ、最後に出ていましたが、学生さんはいそがしく、予習というのが申し分けないと思うことも多いです。
また、知的障害の子たちの学習にも何か応用できないかも考えてみようと思いました。ありがとうございました。

**4．今後取り扱ってほしいテーマを含め，その他意見等　（原文ママ）**

**【学生】**

（1）・コミュニケーション力について or キャリア教育の今後の展望
・演劇（ドラマ）教育の実践 or 効果（海外の事例もふまえて）

（2）・現場では特にアクティブ・ラーニングといえば児童がグループワークをして交流をするだけでとりあえずできていると思っていることが多いと感じているので、本当の意味でのアクティブ・ラーニングを現状どれだけできているものなのかを知りたい。
・反転授業では今までの 2 倍の時間が必要になってしまうと感じたのですが、実際に可能なのかが気になった。

（3）はじめての哲学的思考　苫野一徳氏
学級ファシリテーション講座　ちょんせいこ氏

イエナプラン教育

（４）特にありません。ありがとうございました。

（５）有意義な研修会に参加させていただきありがとうございました。

（６）発達障害の子どもたちは、どのようにアクティブラーニングをしていけばよいか。また、アクティブラーニングが難しいのであれば通常学級の授業ではどうしていばよいか。

（７）復習に対するアプローチも知りたいです。

（８）知識の獲得の仕方や、知識を output するための表現をある程度身につけている高校生～大学生だからこそ、内化１を個人でスタートさせることができるのだと考えます。

1. 学習意欲が低く、内化２をクリアすることができない学生
2. input の手法が定着していない子ども

の事前学習へのアプローチは、どのように行うと良しをされるのか、是非お聞きしたかったです。

（９）高校・大学の授業で目に見えない力もつけるということでしたが、自分に力がついたかどうか分かりません。

また、大学の授業は学ぶ内容が多いように感じています。

学生の外化では、身につく情報の正確性に不安はありますが、大学の授業でこのような授業があると心にも残りそうだと思いました。

(10) 小学校道徳におけるアクティブ・ラーニング反転授業のスタイルを用いた子どもの心に響く授業づくりについての考えを得たいと思いました。道徳を行う際、子どもたちから結論を導き出すことが大変難しいと思い、アクティブ・ラーニング反転学習が活かせるのではないかと考えました。

(11) 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

(12) とてもおもしろかったです。

これからの教育についてさまざまなテーマでやっていただきたいです。

**【教員】**

（１）連続講座のような形ですと学びにつながりやすいです。

例えば今回の講演にもあった「パフォーマンス評価とは何か」「21ｃ型スキルをどうつくり評価していくのか」など…

（２）アクティブ・ラーニングの講義（実際に取り入れた効果的な講義）の見学

（３）ＡＩのディープラーニングと人間のディープラーニングの違いなり共通性について

（４）教師教育者養成について

武蔵大学　武田信子先生のお話か、ワークショップなどいかがでしょうか。

（５）アクションリサーチに関する研修会

教科内容・教科等専門の教員が教職大学院に移るにあたり，院生指導や今後の研究のために勉強したい内容です。学内資源で実施可能ではないかと思います。

## ４. H30年度　他大学等のFD研究会等参加状況一覧

| No. | 所属 | 役職 | 氏名 | 用務内容 | 日程 | 用務先 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 教育実践高度化専攻<br>生徒指導実践開発コース | 教授 | 松本　　剛 | 関西地区FD連絡協議会第11回総会 | 2018/5/19(土) | 関西地区FD連絡協議会<br>(大阪大学) |
| 2 | 教育実践高度化専攻<br>授業実践開発コース | 教授 | 山中　一英 | 関西地区FD連絡協議会第11回総会 | 2018/5/19(土) | 関西地区FD連絡協議会<br>(大阪大学) |
| 3 | 教育実践高度化専攻<br>授業実践開発コース | 准教授 | 山内　敏男 | 学生を授業に参加させる秘訣ーアクティブラーニングの魅力ー | 2018/8/10(金) | 滋賀県立大学 |
| 4 | 教育実践高度化専攻<br>生徒指導実践開発コース | 教授 | 松本　　剛 | 「今、あらためて学修成果とは何かを問う：第３期認証評価の先のＦＤを目指して」 | 2019/2/9(土) | 関西大学 |
| 5 | 教育実践高度化専攻<br>授業実践開発コース | 教授 | 山中　一英 | 「今、あらためて学修成果とは何かを問う：第３期認証評価の先のＦＤを目指して」 | 2019/2/9(土) | 関西大学 |
| 6 | 学務課教務企画チーム | 課員 | 沼田　英佑 | 「今、あらためて学修成果とは何かを問う：第３期認証評価の先のＦＤを目指して」 | 2019/2/9(土) | 関西大学 |
| 7 | 学務課教務チーム | 課員 | 山野　雄太 | 「今、あらためて学修成果とは何かを問う：第３期認証評価の先のＦＤを目指して」 | 2019/2/9(土) | 関西大学 |
| 8 | 学務課 | 副課長 | 宮脇　浩和 | 「変革する大学　～IR・ポートフォリオ・クラウドの展開と可能性について～」 | 2019/2/19(火) | 上智大学 |

平成30年度教職大学院授業改善・FD推進委員会活動実績

| 領域 | 項目 | 活動計画 | 実績評価 |
|---|---|---|---|
| 授業評価 | 「実習科目」に対する授業評価の実施 | ・各実習科目について，学生ならびに実習校を対象とした評価アンケートを作成して実施する。なお，具体的な評価項目は，これまでのものをふまえて作成する。また，質問紙の発送や結果の集計等の手続きを外注することも検討する。 | ・実習校に対しては，連携協力校連絡協議会やコースでの聞き取りによって評価を収集した。<br>・学生に対しては，Google Form を利用して調査を実施した。具体的な項目については，これまでの10項目に加えて，受講者自身の取組姿勢を振り返る意味から，マークシート「授業の評価について」の⑩～⑫などの項目を参考に３項目を新たに作成した。 |
| | 「授業評価結果学生対象説明会」の実施 | ・説明会を企画・実施して，授業評価結果とその改善方策を学生に提示する。<br>・今年度の実施について検討する。実施する場合，「共通基礎科目」「専門科目」の評価結果をどのように集計するかなどの検討が必要になる。 | ・4/9に実施した。<br>・今年度は，これまでのような全体での説明会は実施せず，年度末にコース別で実施した。共通基礎科目については，授業担当者がその場にいなくても，そこで聞き取りを行い，授業改善・ＦＤ委員会で共有することで授業担当者に意見等が届くようにした。 |
| 内的ＦＤ | ＦＤ研修会の実施 | ・専攻会議等においてＦＤ活動への取組状況を共有する。<br>・例年，後期開始時にＦＤ研修会を実施して，前期の授業評価結果を共有していた。今年度も継続して実施するなら，「共通基礎科目」と「専門科目」の結果の集計手続きに関する検討が必要になる。 | ・今年度はすでに一度実施済み（4/2；第１回専攻会議終了後実施）。<br>・１月の教育実践高度化専攻会議において授業評価システムの変更に伴う課題等について意見を求め，２月の授業改善・ＦＤ委員会にてそれを検討した。 |
| | ＦＤ推進委員会主催研究会等への参加 | ・ＦＤ推進委員会が主催するアクティブ・ラーニング研究会，授業公開等への参加を促進する。 | ・第11回ＡＬ研究会（開催日：1/17；講師：森朋子関西大学教授）に多くの教職大学院教員が参加した。 |
| | 「教員養成スタンダード（大学院）」の活用 | ・「教員養成スタンダード」の有効活用に向けた検討を行う。たとえば，Live Campusとの連携は可能か。 | ・Live Campusとの連動によってビッグデータ化することで，IR活動と連携した展開を図ることが可能になるなどの提案を含め，今後も検討が必要であることを確認した。 |
| 外的ＦＤ | 授業公開の実施 | ・「教職大学院公開授業」等を通して，学外への授業やゼミの公開を図る。また，学外者の授業参観・視察等を促進する。 | ・5/12と10/6の２回実施した。なお，今年度から「教職大学院公開授業」に関する情報をウェブサイトに公開した。 |
| | 実習校等との意見交換の実施 | ・連携協力校連絡協議会等において，実習校等と意見交換を行う。 | ・3/9に実施した。 |
| | 外部評価委員会の実施 | ・外部評価委員会を実施し，教育の質保証に向けた意見を収集する。 | ・3/9に実施した。 |
| その他 | 教職大学院の拡充に伴う検討課題の抽出 | ・教職大学院の拡充に伴い本委員会が検討しておくべき課題等について議論し論点を整理する。 | ・授業改善・ＦＤ委員会において，その都度，意見交換を行い，今後の検討の必要性を確認した。 |

# Ⅲ　資　料

H25.10.2　教育研究評議会決定

# 本学におけるＦＤの定義について

兵庫教育大学におけるＦＤとは，本学のミッション及びビジョンを実現するために，大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して，教員と事務職員が協働し，学生の参画を得て行う，教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

（１）本学のミッション及びビジョンを実現すること　（Ｗｈａｔ　ｆｏｒ）

（２）全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をＦＤ活動と認識すること　（Ｗｈａｔ）

（３）教員と事務職員が協働し，学生の参画を推進すること　（Ｗｈｏ）

（４）教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性，有効性について継続的に検証を行い，更なる改善・充実を組織的に図ること　（Ｈｏｗ）

# 兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

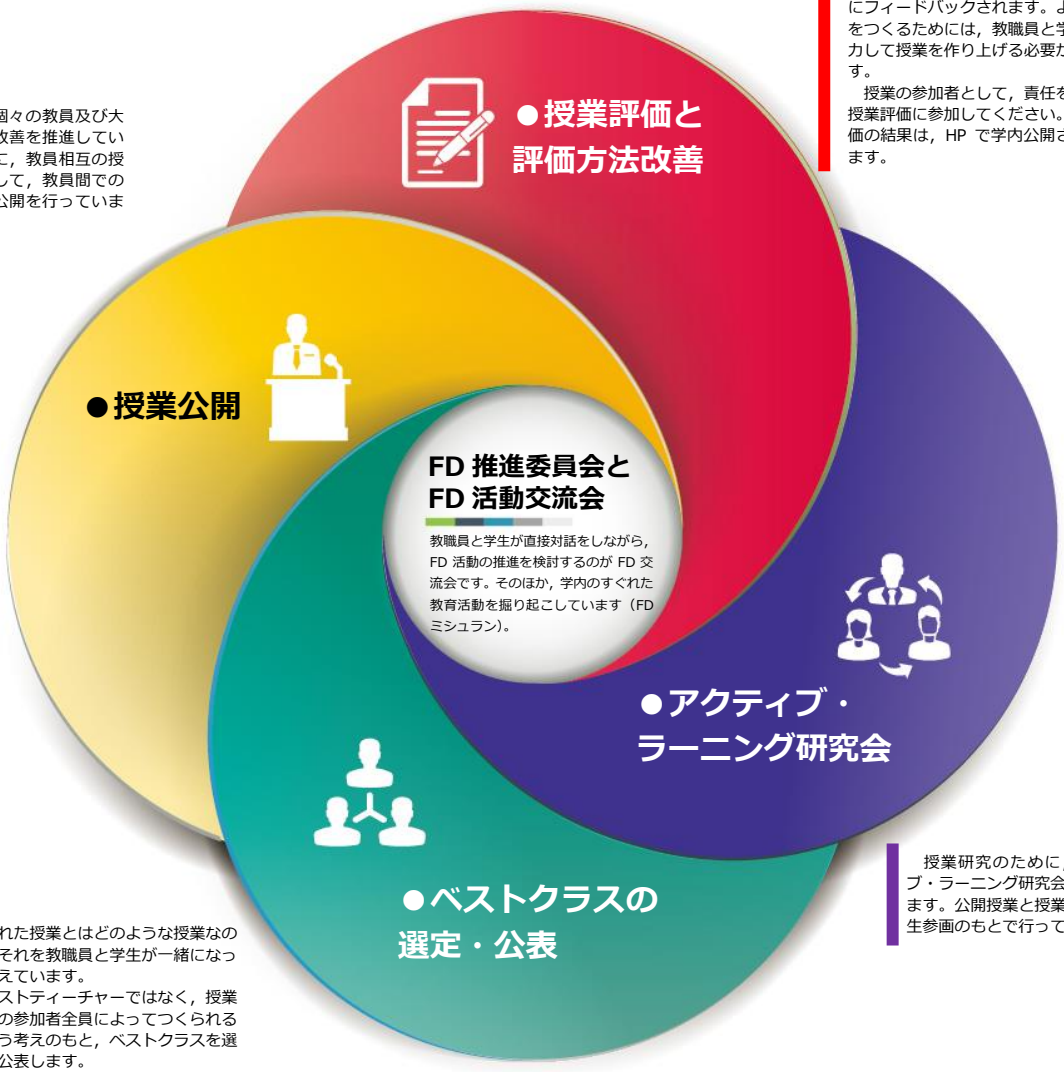
**FD とは，ファカルティ・ディベロップメントの略で，教育の質保証をめざす取り組みのことです。**

本学における FD とは，本学のミッション及びビジョンを実現するために，大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して，教員と事務職員が協働し，学生の参画を得て行う，教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では，個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に，教員相互の授業研究の場として，教員間での日常的な授業公開を行っています。

前期末および後期末に全ての授業で授業評価を行っています。評価結果は10～11 月（前期）と 4～5 月（後期）にフィードバックされます。よい授業をつくるためには，教職員と学生が協力して授業を作り上げる必要があります。

授業の参加者として，責任を持って授業評価に参加してください。授業評価の結果は，HP で学内公開されています。




優れた授業とはどのような授業なのか。それを教職員と学生が一緒になって考えています。

ベストティーチャーではなく，授業はその参加者全員によってつくられるという考えのもと，ベストクラスを選定し公表します。

授業研究のために，アクティブ・ラーニング研究会を行っています。公開授業と授業研究会を学生参画のもとで行っています。

# 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(平成16年4月1日規程第17号)

改正　平成17年３月31日　平成17年９月　６日
平成18年３月　８日　平成18年７月12日
平成18年12月６日　平成19年３月14日
平成20年１月16日　平成20年３月11日
平成23年３月14日　平成24年３月26日
平成25年４月　２日　平成28年１月13日
平成29年３月14日　平成29年６月30日

（設置）

第１条　国立大学法人兵庫教育大学（以下「本学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「ＦＤ」という。）の推進を図るため，国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（構成）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　副学長のうち学長が指名した者　１人

(2)　教育支援担当の学長特別補佐

(3)　次のア，イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者

ア　人間発達教育専攻又は特別支援教育専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教　２人

イ　教科教育実践開発専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教　３人

ウ　教育実践高度化専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教　１人

(4)　学長が指名した者

２　前項第３号及び第４号に規定する委員の任期は，２年とする。ただし，欠員を生じた場合の後任の委員の任期は，前任者の任期の残余の期間とする。

３　前項の規定による委員は，再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第３条　委員会に委員長及び副委員長を置き，委員長は，前条第１項第２号に規定する学長特別補佐をもって充て，副委員長は，委員の互選によって定める。

２　委員長は，委員会を招集し，議長となる。

３　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，委員長の職務を代行する。

（所掌事項）

第４条　委員会は，次の各号に掲げる事項を企画し，及び実施する。

(1)　ＦＤに係る調査・研究に関すること。

(2)　教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。

(3)　教育改善に係る評価に関すること。

(4)　その他ＦＤに関すること。

（議事）

第５条　委員会は，委員の３分の２以上の出席がなければ議事を開き，議決することができない。

２　委員会の議事は，出席委員の過半数でこれを決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（代理出席）

第５条の２　委員会は，第２条第１項第３号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは，当該委員が所属する専攻の教授，准教授，講師又は助教を代理者　として出席させることができる。

２　前項の規定により代理者を出席させた場合は，当該代理者を委員とみなす。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会は，必要があると認めるときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことがで

きる。
（専門委員会等）
第７条　委員会が必要と認めるときは，専門的な事項を調査検討するため，専門委員会等を置くことができる。
（事務）
第８条　委員会に関する事務は，教育研究支援部学務課が処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，別に定める。

附　則
この規程は，平成 16 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 17 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 17 年９月６日から施行する。
附　則
この規程は，平成 18 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 18 年７月 12 日から施行する。
附　則
この規程は，平成 19 年４月１日から施行する。
附　則
１　この規程は，平成 19 年４月１日から施行する。
２　この規程施行後第２条第１項第２号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず，学長が定める。
附　則
この規程は，平成 20 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 20 年４月１日から施行する。
附　則
１　この規程は，平成 23 年４月１日から施行する。
２　この規程施行後第２条第１項第３号及び第４号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず平成 24 年３月 31 日までとする。
附　則
この規程は，平成 24 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 25 年４月２日から施行し，平成 25 年４月１日から適用する。
附　則
１　この規程は，平成 28 年４月１日から施行する。
２　この規程施行後第２条第１項第３号及び第４号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず，学長が定める。
附　則
この規程は，平成 29 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 29 年７月１日から施行する。

平成 21 年 11 月 6 日
学　長　裁　定
改正　平成 26 年 6 月 2 日

## 授業公開の実施に関する申合せ

1　授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し，個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2　対象授業

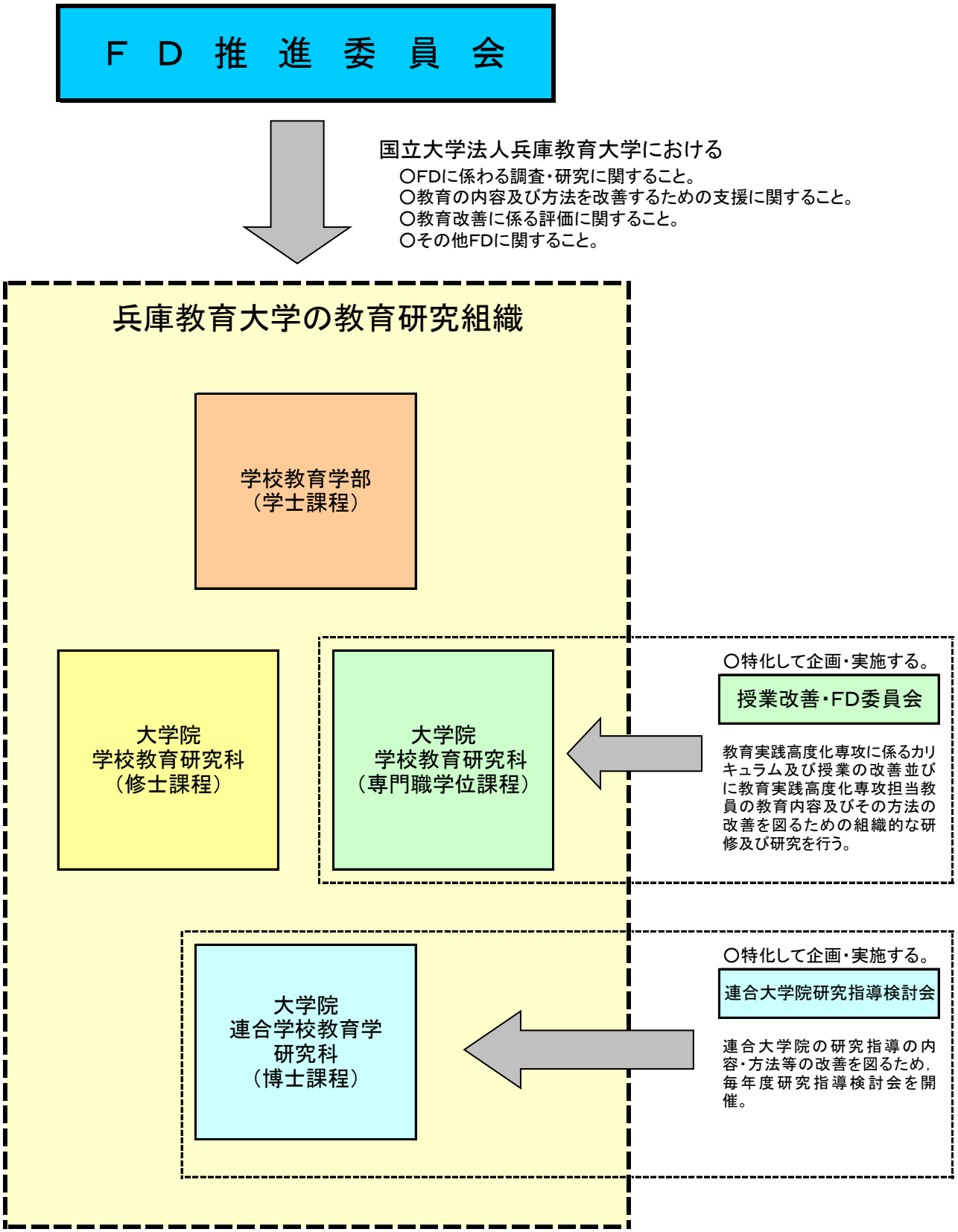
原則として，授業は全面公開とする。ただし，授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

3　公開期間

各教員においては，日常的に「授業研究」を行い，授業の改善に努めているところであるが，このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため，個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合，授業公開に参加を希望する教職員は，当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし，日常の教育活動を保証するため，次の期間については公開の対象としない。

(1)　定期試験の期間
(2)　学期当初の期間（１～２週間）
(3)　実地教育等に関わる期間

# 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



# ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

平成30年4月1日現在

| 所 属 等 | 職　名 | 氏　名 | 任　期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| － | 副学長 | 須田　康之 | － | 第１号委員 |
| － | 学長特別補佐<br>(教育支援担当) | 松本　　剛 | － | 委員長<br>第２号委員 |
| 人間発達教育専攻<br>幼年教育・発達支援コース | 助　教 | 加納　史章 | H29.4. 1<br>～H31.3.31 | 第３号委員 |
| 特別支援教育専攻<br>発達障害支援実践コース | 准教授 | 石橋由紀子 | H30.4. 1<br>～H32.3.31 | 〃 |
| 教科教育実践開発専攻<br>理数系教育コース | 准教授 | 石原　　諭 | H30.4. 1<br>～H32.3.31 | 〃 |
| 教科教育実践開発専攻<br>芸術系教育コース | 准教授 | 淺海　真弓 | H30.4. 1<br>～H32.3.31 | 〃 |
| 教科教育実践開発専攻<br>生活・健康・情報系教育コース | 准教授 | 掛川　淳一 | H29.4. 1<br>～H31.3.31 | 〃 |
| 教育実践高度化専攻<br>小学校教員養成特別コース | 准教授 | 筒井　茂喜 | H29.4. 1<br>～H31.3.31 | 〃 |
| 教育実践高度化専攻<br>生徒指導実践開発コース | 教　授 | 山中　一英 | H30.4. 1<br>～H32.3.31 | 第４号委員 |